

## 佳作

### 燃えよ私

福島県須賀川市立第二中学校

3年 阿部 愛央

「それって、どういうことだろう。」

一つの小さな疑問が浮かぶ。そうしたらいてもたってもいられず、答えを宝物を探すようにわくわくしながら調べる。私は、幼いときから今も、そのひと時が本当に大好きです。

私が小学校低学年だった頃、まるで私の相棒みたいだ、と思っていたのは図鑑です。初めて買ってもらったのは恐竜の図鑑で、親に驚かれましたが、「好きなんだもん！」そう言っていた記憶があります。その他にも、たくさんのジャンルの図鑑を買ってもらい、隅の方まで読んでるのが好きでした。特に、新しい知識がどんどん入ってくるのが宝物を見つけた時のようで、楽しくてしかたがありませんでした。

そんな私にとって一度だけ、大事件がありました。夕食の焼き魚に、寄生虫のアニサキスがいたのを見つけてしまったのです。アニサキスは図鑑やテレビで見かけ、見た目と名前などを知っていました。食事中にもかかわらず、図鑑をひっぱり出してきたり、ライトを当てて観察したりしていました。その時は怖いもの見たさで夢中になって観察し、食事どころではありませんでした。ついには、食べたら危ないのではないかとという一心で「絶対食べない！」と言い張り、家族は苦笑いしていました。

そんな一件を母が知り合いの医師に話したところ、

「自分が知りたいことをとことん探る姿勢、科学者に向いているね。」

そう言われたそうです。笑い話となった出来事でしたが、幼い私は先生の言葉で科学者という仕事を初めて知りました。自分の興味があることを熱心に研究できるその職業に魅力を感じ、その頃の将来の夢でした。

私が中学3年生になると、特に最近は自分の進路について考える機会が増えました。進路の考えを書くプリントにも、将来の希望している職業を記入する欄があったりと、今までよりも具体的に考えるようになったと感じます。高校についてはあと数カ月後の話だったので明確な理想がありました。それに対し、今の私にとって高校卒業後の進路は、何をしたいか決まっておらず、雲をつかんでいるような感覚でした。その時よく母に、

「興味があることを熱心に調べる姿勢は変わらないね。」

とよく言われていることを思い出したのです。最近ではよく資料集を読んでい

て、答えが分かり納得するまで調べています。母の話から、久しぶりに小学生の頃よく読んだ図鑑に目を通してみると、ページのところどころに付箋が付いていたり、読み込まれているページがあったりと懐かしく感じました。そして同時に、知りたいことをどんどん探究していた当時の熱量も感じました。その熱量は、今までずっと私の中にその探究心があったことに気づけたきっかけになり、その姿勢を将来に生かせるかもしれないという自信にもつながりました。そしてあの頃の、科学者になりたいという同じ夢をもう一度いだいてみよう、と前向きに思いました。

世の中は日々たくさんの技術で進歩していて、今と私が大人になる時では、職種もかなり変化するだろうということを聞いたことがあります。今ある職業でも、なくなってしまうものがあるかもしれないし、逆に新しい職業が登場するかもしれません。そのように、まだまだ世の中で多様な変化があると思います。私自身、これからいろいろなものにふれ、経験し、学んでいくことでどんな将来像を持つのか全く想像もつきません。ですが、どんな道を行くとしても、常に「好奇心」そして「探究心」は私の中心にあるのではないかと確信しています。

私の将来像、そして夢は、自分の疑問とその答えをどこまでも追い求める、探究心に溢れた「科学者」になることです。そして何より、この先は決して楽ではなく、不安なことや苦勞することが多い道が続くと思います。そんな時、努力を惜しまず学び続け、その道を逆に楽しんで進み続けられるような人になりたいです。たとえ険しく、茨の道だったとしても、前向きに全力で進もうと思います。そして今私がやるべきこと、夢に近づくためにすべきことは何かを考え、今からその一日一日を、夢のために前進できる一歩となるように目指していきたいです。

幼い頃から今も私が大好きな、「知らないことをとことん調べる」「新しい知識が自分のものになっていく」そのわくわくした気持ち。その気持ちこそが、今の私の中学校での学びや将来の夢へのアクションの一つ一つ。そして、これからの進路を進む大きな私のエネルギーです。